

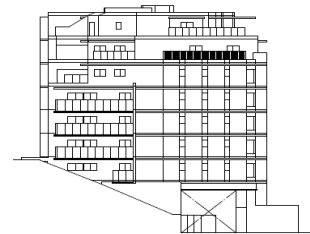
CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムVer.7.9 (2018)

使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中千種区田代町計画 新築工事	階数	地上7階、地下2階
建設地	名古屋市中千種区田代町字田代町敷地(14番1、14番2、14番3、14番4、14番5、14番6、14番7、14番8、14番9、14番10、14番11、14番12、14番13、14番14、14番15、14番16、14番17、14番18、14番19、14番20、14番21、14番22、14番23、14番24、14番25、14番26、14番27、14番28、14番29、14番30、14番31、14番32、14番33、14番34、14番35、14番36、14番37、14番38、14番39、14番40、14番41、14番42、14番43、14番44、14番45、14番46、14番47、14番48、14番49、14番50)	構造	SRC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、第2種住居地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	282 人
地域区分	6地域	年間使用時間	247,032 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年4月 予定	評価の実施日	2025年5月7日
敷地面積	5,426 m ²	作成者	
建築面積	1,690 m ²	確認日	2025年5月7日
延床面積	10,816 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.8 ★★★★★★☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 音環境 3.7 温熱環境 3.7 光・視環境 2.7 空気質環境 3.9	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 機能性 3.1 耐用性・信頼性 3.1 対応性・更新性 3.0	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.6 生物環境 4.0 まちなみ・景観 3.0 地域性・アメニティ 4.0
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1 建物外皮の熱負荷 4.0 自然エネルギー 2.0 設備システム効率化 5.0 効率的運用 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6 水資源確保 3.4 非再生材料の使用削減 3.8 汚染物質回避 3.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2 地球温暖化への配慮 3.9 地域環境への配慮 2.9 周辺環境への配慮 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 高い外皮性能と省エネルギー性で快適な室内環境の住まいである。また従来の自然を活かし、良好な都市環境を形成する。共用部には街全体に開く施設を設ける事で、賑わいのある街並みを形成する。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級4を満たす計画とし、省エネルギーで快適な室内環境を形成する。	Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い建材を採用する事で、永くより良い状態で建築物を使い続けられ機能的側面に寄与する。	Q3 室外環境(敷地内) 既存樹の利用や緑化を施す事で、温熱環境の配慮と生育環境の保全・創出に寄与する。
LR1 エネルギー 適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めるとともに、高効率の設備を採用し建築物の環境負荷低減を図る。	LR2 資源・マテリアル 躯体材料にリサイクル材の使用をする事で、非再生性資源の使用量削減に努め、環境負荷削減へ貢献する。	LR3 敷地外環境 高い外皮性能と省エネルギー性よりCO₂排出削減に貢献し、温暖化の原因となる運用エネルギー削減に貢献する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市千種区田代町計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。